

## 2018 年度事業計画

### 1. 会員

会員を増やすための努力をするとともに、会員数が減少しても運営できる財務体質を目指す。

### 2. 会議

2.1 2018 年度定時社員総会 (2018 年 6 月, 都内にて開催)

2.2 理事会 (年 4 回以上開催)

2.3 役員会 (年 6 回以上開催)

2.4 評議員会 (年 1 回開催)

### 3. 事業活動

#### 3.1 機関誌発行

4 冊の機関誌を編集刊行する。採録論文の一部は、機関誌のサイバー増大号の形で電子的に出版する。現在の解説論文や特集号の充実を維持すると同時に、本誌部分にはトピックス記事などを優先して掲載し、より広く会員に読まれることを目指す。

会員が投稿しやすい機関誌を目指し、査読から掲載までのさらなる迅速化を図る。

特集号、推薦論文、大会同時投稿論文などを通して、研究会・大会との連携を深め、掲載論文の充実を図る。

二重投稿を明確化した投稿規定の改訂 (2017 年 11 月) により、二重投稿を未然に防  
止し、合わせて科学者としての倫理の周知に努める。

#### 3.2 大会

第 35 回大会を以下の要領で開催する。

日 時 :	2018 年 8 月 29 日 (水)~31 日 (金) 併設イベントは 8 月 28 日 (火) に開催予定
会 場 :	大阪大学コンベンションセンター
大会委員長 :	井上克郎 (大阪大学)
運営委員長 :	楠本真二 (大阪大学)
運営副委員長 :	中川博之 (大阪大学)
プログラム委員長 :	森畑明昌 (東京大学)
プログラム副委員長 :	伊藤恵 (公立はこだて未来大学) 長谷部浩二 (筑波大学)
広報委員長 :	稲葉一浩 (Google)
登壇発表申込締切 :	2018 年 7 月 6 日 (金)
講演論文原稿締切 :	2018 年 8 月 6 日 (月)
デモ・ポスター発表申込締切 :	2018 年 8 月 7 日 (火)

#### 3.3 講習会

学会会員サービスとしてチュートリアル・大学基礎講座を実施し、また、大会併設企画、および大会企画の立案・実施に協力する。2017 年度の実績も踏まえ、今後の実施の方向性について検討するとともに編集委員会との連携なども模索する。また本年度は FTD (Future Technology Design) を休催するため、その是非についても継続検討する。

### 3.4 研究会

次の9研究会が活動する。各研究会の活動予定は下記の通りである。

#### (1) 「プログラミング論」研究会（主査：南出 靖彦）

- 運営委員会の構成の変更

任期満了により、以下の運営委員（敬称略）の交替を予定している。

退任（3名）：岩崎 英哉（主査：電気通信大学）、河内谷清久仁（日本アイ・ビー・エム（株））、前田 敦司（筑波大学）

新任（3名）：南出 靖彦（主査・東京工業大学）、西崎 真也（東京工業大学）、松崎 公紀（高知工科大学）

2018年度の運営委員は以下の10名である（五十音順）。

青戸 等人（新潟大学）、鶴川 始陽（高知工科大学）、馬谷 誠二（京都大学）、中澤 巧爾（名古屋大学）、西崎 真也（東京工業大学）、浜名 誠（群馬大学）、番原 睦則（神戸大学）、松崎 公紀（高知工科大学）、南出 靖彦（主査・東京工業大学）、森畑 明昌（東京大学）

- コンピュータソフトウェア誌へのPPL 2018 推薦論文の提案

PPL 2018 採録論文の一部の著者へ投稿を推奨予定

- 第16回プログラミングおよびプログラミング言語に関するサマースクール（PPL Summer School 2018）の主催

日本ソフトウェア科学会第35回大会 併設，2018年8月28日予定（幹事：番原 睦則（神戸大学））

- 第35回大会 PPL セッションの実施

第34回大会と同様に研究会セッションを設置することになった場合には、PPL セッションを実施する。

- 第21回プログラミングおよびプログラミング言語に関するワークショップ（PPL 2019）主催

日程：2019年3月中，2泊3日で開催

場所：検討中

プログラム共同委員長：末永 幸平（京都大学）、笹田 耕一（クックパッド）

組織委員長：浅田 和之（東京大学）

- FLOPS 2018 (The 14th International Symposium on Functional and Logic Programming) の主催

日程：2018年5月9日～11日

場所：名古屋大学本山キャンパス

General Chair：龍田 真（NII）

Program Co-Chairs：John Gallagher and Martin Sulzmann

Local Chair：中澤 巧爾（名古屋大学）

- 2018 年度運営体制
  - a) 主査  
南出 靖彦 (主査・東京工業大学)
  - b) リエゾン企画委員  
森畑 明昌 (東京大学)
  - c) 運営委員  
青戸 等人 (新潟大学), 鷗川 始陽 (高知工科大学), 馬谷 誠二 (京都大学), 中澤 巧爾 (名古屋大学), 西崎 真也 (東京工業大学), 浜名 誠 (群馬大学), 番原 睦則 (神戸大学), 松崎 公紀 (高知工科大学), 南出 靖彦 (主査・東京工業大学), 森畑 明昌 (東京大学),
  - d) 学会員ではないが運営に携わる者: なし
- (2) 「マルチエージェントシステムと協調計算」研究会 (主査: 清雄一)
  - 合同エージェントワークショップ & シンポジウム (JAWS2018) 共催
  - MACC 研究会 1 回開催
  - 国際会議 PRIMA2018 関連行事に後援
  - クラウドソーシング研究会に協賛
  - 2018 年度運営体制
    - a) 主査  
清雄一 (電気通信大学)
    - b) リエゾン企画委員  
櫻井祐子 (産業技術総合研究所)
    - c) 運営委員  
東藤大樹 (九州大学)
- (3) 「インタラクティブシステムとソフトウェア」研究会 (主査: 伊藤貴之)
  - 第 26 回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ (WISS 2018)  
主催: 日本ソフトウェア科学会 インタラクティブシステムとソフトウェア研究会  
日時: 2018 年 9 月 26 日 (水)~28 日 (金) (予定)  
場所: 〒 409-1501 山梨県北杜市大泉町西井出 8240-1039 ハケ岳ロイヤルホテル  
プログラム委員長 伊藤貴之 (お茶大)  
運営委員長 竹川佳成 (はこだて未来大) 副運営委員長 西田健志 (神戸大)  
収入予定 8,000,000 円、支出予定 8,000,000 円
  - 情報処理学会インタラクシオン 2019 に協賛予定
  - エンタテインメントコンピューティング 2018 に協賛予定
  - 2018 年度運営体制
    - a) 主査  
伊藤貴之 (お茶大)
    - b) リエゾン企画委員  
綾塚祐二 (クレスコ)

(4) 「ソフトウェア工学の基礎」研究会（主査：門田 暁人）

- ワークショップ 1 回開催  
FOSE2018 第 25 回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ  
日程：2018 年 11 月 15-17 日  
場所：北海道函館市（予定）  
プログラム委員長：伊藤 恵（公立はこだて未来大学），神谷 年洋（島根大学）
- コンピュータソフトウェア誌の「ソフトウェア工学の基礎」特集号（予定）
- 大会にて研究会セッションを開催（2018 年 8 月）
- 協賛予定の会議  
機械学習工学研究会 キックオフシンポジウム（2018 年 5 月）  
ソフトウェアテストシンポジウム (JaSST)2018
- 2018 年度運営体制
  - a) 主査  
門田暁人（岡山大学）
  - b) リエゾン企画委員  
吉岡 信和（国立情報学研究所）

(5) 「インターネットテクノロジー」研究会（主査：藤本衡）

- WIT2018(第 19 回インターネットテクノロジーワークショップ) の主催  
2018 年 10 月（開催日未定）
- コンピュータソフトウェア誌  
ネットワーク技術特集号を募集  
2018 年 4 月の編集委員会に提案予定
- 予算  
収入 WIT2018 参加費収入 (参加者見込み：25 名程度) 350,000 円  
支出 WIT2018 運営費 350,000 円
- 2018 年度運営体制
  - a) 主査  
藤本衡 (東京電機大学)
  - b) リエゾン企画委員  
(調整中)
  - c) 運営委員  
寺岡文男 (慶應大学), 和泉順子 (法政大学), 河合栄治 (情報通信研究機構)

(6) 「ディペンダブルシステム」研究会（主査：前田 俊行）

- 概要  
2017 年度までより引き続き，ディペンダブルシステムの理論や実装に関する先導研究を推進するための討論・研究成果発表の場を設けることを目的にワークショップを開催する。
- 第 16 回ディペンダブルシステムワークショップ (DSW2018) の開催  
日時：2018 年 12 月頃  
場所：未定 (北陸地方を予定)  
幹事：石井 大輔, 阿部 洋丈, 松野 裕, 大場 勝

- 予算
  - 収入：600,000 円
  - 支出：600,000 円
- 2018 年度運営体制
  - a) 主査
    - 前田 俊行 (千葉工業大学)
  - b) リエゾン企画委員
    - 松野 裕 (日本大学)
  - c) 運営委員
    - 石井 大輔 (福井大学)
    - 阿部 洋丈 (筑波大学)
    - 松野 裕 (日本大学)
    - 大場 勝 (日産自動車)

(7) 「ネットワークが創発する知能」研究会 (主査：栗原 聡)

- JWEIN-Summer ワークショップ
  - 日程:8 月上旬予定
  - 場所:都内を予定
  - プログラム委員長: 諏訪博彦 (NAIST)
- JWEIN-DOCMAS 合同合宿
  - 日程:12 月上旬予定
  - 場所:未定
  - プログラム委員長:未定
- 2018 年度運営体制
  - a) 主査
    - 栗原聡 (電気通信大学)
  - b) リエゾン企画委員
    - 栗原聡 (電気通信大学)
  - c) 運営委員
    - 栗原聡 (電気通信大学)
    - 風間一洋 (和歌山大学)
    - 内藤祐介 (人工生命研究所)
    - 中島秀之 (東京大学)
    - 廣津登志夫 (法政大学)
    - 松尾豊 (東京大学)

(8) 「実践的 IT 教育」研究会 (主査：田原康之)

- 運営委員会の構成変更
  - 2018 年 4 月より主査は田原康之氏 (電気通信大学) に交代予定である。リエゾン企画委員は調整中で 2 名選出の予定である。
- 第 34 回大会研究会での企画
  - 今年度に引き続き、第 35 回大会でも企画セッションを実施する予定である。
- コンピュータソフトウェア誌 rePiT 特集号
  - 第 3 回 rePiT 特集号を組む予定である。

- 第4回実践的IT教育研究シンポジウムの開催  
2019年1月～2月に、第5回実践的IT教育研究シンポジウムの開催予定である
- 2018年度運営体制
  - a) 主査  
田原康之（電気通信大学）[新任]
  - b) リエゾン企画委員  
本田 澄（早稲田大学）[新任]
  - c) 運営委員  
井垣 宏（大阪工業大学）  
伊藤 恵（公立はこだて未来大学）  
大久保 隆夫（情報セキュリティ大学院大学）  
大場 みち子（公立はこだて未来大学）  
桑野 文洋（日本工業大学）  
藤原 賢二（豊田工業高等専門学校）[新任]  
森本 千佳子（東京工業大学）  
吉岡 信和（国立情報学研究所）  
吉田 則裕（名古屋大学）
- (9) 「機械学習工学」研究会（主査：石川 冬樹）
  - 活動計画
    - － キックオフシンポジウム  
5月・都内（5/17・一橋講堂）
    - － ワークショップ  
7月・神奈川
    - － 勉強会  
四半期に1回程度・都内
  - 収支
    - － 学会からの立ち上げ支援金  
収入：10万
    - － キックオフシンポジウム  
収入：110万，支出：120万
    - － ワークショップ  
収入：70万，支出：70万
    - － 勉強会  
収入：10万，支出10万

- 2018 年度運営体制
  - a) 主査  
石川 冬樹 (国立情報学研究所)
  - b) リエゾン企画委員  
土肥 拓生 (レベルファイブ)
  - c) 運営委員  
丸山 宏 (Preferred Networks)  
吉岡 信和 (国立情報学研究所)  
今井 健男 (LeapMind)  
守田 憲司 (Preferred Networks)  
土肥 拓生 (レベルファイブ)  
太田 満久 (ブレインパッド)  
吉崎 亮介 (キカガク)

### 3.5 広報

本学会 Web ページ, 会員メーリングリスト, Twitter 等の電子的な広報手段を整備・活用し, 有益な情報を効果的かつ適時に会員に提供する.

### 3.6 賞の選考

フェロー, 功労賞, 基礎研究賞, 研究論文賞, 解説論文賞, 高橋奨励賞を選考する.

## 2018 年度予算

2018 年度の単年度予算としては収入 37,805,000 円、支出 38,155,000 円を計上している。

### 1. 予算方針

近年の決算においては、本学会の財務収支は、法人化と支出削減努力によって、収入が支出を上回る状況で推移している。しかし、2017 年 1 月の会員数（正会員：803 名、学生会員：51 名、準会員：22 名、団体会員：7 名、賛助会員：3 名 8 口）と 2017 年 12 月の会員数（正会員：771 名、学生会員：47 名、準会員：18 名、団体会員：5 名、賛助会員：3 名 8 口）を比較すると会員数は減少傾向にあり、今後の財務状況を注視していく必要がある。特に、職場からの退職による退会者の数は増加していくことが予想され、新規会員の獲得および学生会員から正会員への昇格をより一層進めていく必要がある。学生会員の減少に関しては、大会の発表資格として会員であることを課さなくなったことも影響していると考えられる。今後、学生会員の獲得の方策を検討する必要がある。

### 2. 各費目の計上理由

入会金・会費収入予算は、前述の 2017 年 12 月 26 日時点での正会員 771 名、学生会員 47 名、準会員 18 名、団体会員 5 名、賛助会員 3 名 8 口を基に見積もっている。研究活動費に関しては、研究論文賞 2 件、高橋奨励賞 2 件、解説論文賞 2 件分の予算、各表彰の際に手渡すトロフィー等の表彰アイテムの予算、および新研究会の立ち上げ支援金の予算を計上している。大会については、昨年度の決算から収入、支出を見積もり、大会単体では黒字となる予算としている。機関誌については、一昨年度から部数を減らして購入費の削減を図っており、サイバーページのボリュームも含めて、昨年度と同程度に見積もっている。機関誌業務費については、機関誌に付随する発送費・発送手数料、著者負担金請求手数料等を計上している。講習会については、昨年度から回数を減らして 1 回の開催を予定し、さらに、昨年度まで計上していた FTD（参加費無料）を開催する予算を計上していない。委託手数料については、ホームページ管理者および会計管理のための税理士への委託料を計上している。また、消費税および住民税の概算額を租税公課に計上している。事務局費については、案内通知、督促状等、会員管理・会計等の年間業務委託費を計上し、事務局変動費として、機関誌、資料の保管料やその他事務局に委託する費用を計上している。基礎研究賞事業については、昨年度と同じ収支を予定している。研究会事業については、各研究会の参加費等による収入と、研究会実施のための支出を計上している。会員への還元や研究会活動の活性化を目的として、これまでの繰越金を支出することを予定しており、全体としては支出超過の計画となっている。